

平成 30 年 6 月定例会 一般質問

荒井宏幸 保守市民クラブの荒井宏幸です。本日最後の、そして今定例会一般質問の前半、最後を締めくくる質問としてやらさせていただきますので、どうぞもうしばらくの間おつき合いをお願いします。通告に従い、分割にて質問します。

質問に先立ち、このたびの西区小針での痛ましい事件において被害に遭われました大桃珠生さんの御冥福を心よりお祈り申し上げます。そして、二度とこのような悲劇が起こらぬよう、徹底した防犯の必要性を感じています。

初めの質問は、1、地域の子供たちを犯罪から守るためにどのような取り組みをすべきかについてです。

(1)として、犯罪抑止の見守り体制を構築、拡大するためにはどうすべきかを伺います。

小針の痛ましい事件後、教育委員会からの見守りボランティアへの参加呼びかけの強化により、市全体の登録者は、年度末の2,502名から300名以上ふえていると聞いています。呼びかけに賛同し、子供たちを守るために立ち上がった方々が本市にはこれほど多くいらっしゃるということに力強さを感じました。小針地区の子ども見守り隊の人数は高齢化の影響で減っていき、事件当時11名であったと聞いています。少ない人数で地域の安全のために精いっぱい御尽力されてきた方たちのお気持ちは今回、どれほど無念であったか、察して余りあるものがあります。

政令市新潟は広く、地域を取り巻く状況もさまざまであり、実情を見ながらでないとう事を一斉に進めることはなかなか難しい面もあると認識して

います。私の住む地域では、ありがたいことに多くの方々から子ども見守り隊に御参加いただいています。中野山小学校区は130名、南中野山小学校区は100名の方々から子ども見守り隊に登録し、下校時のパトロール等で日々、児童の安全のために汗をかいていただいています。両コミュニティ協議会は、自治会と協力して体制を築いています。実際にお話を伺ってみますと、絶えず努力を継続されていることがよくわかりました。何しろ毎日のことですので、人数がある程度そろっていないとローテーションが厳しくなり、負担がかかってしまいます。しかも、児童が帰っていく方向もそれぞれ違うので、満遍なく各自治会長にボランティアの選出を随時、お願いしているそうです。新年度には、お子さんやお孫さんが入学されることをきっかけに始める方も多く、特に力を入れてお願いしているそうです。独自の取り組みとしては、班ごとに日誌をつけて、定期的に内容を抜粋したプリントを配布して情報や問題意識を共有したり、年に2回の会議と研修会を開催し、責任感や使命感を持ち、一致団結していこうという機運を醸成しています。こうしたことの積み重ねにより、長く続ける人が多くなり、体制が保たれているようです。

子ども見守り隊は、善意によって成り立っている組織です。その上、時間と体力も使います。しかし、続けていくうちにその経験値から余裕も生まれ、喜びや楽しみを感じることも多々あるようです。特に、子供の成長する姿を間近で見るとはとても楽しいというお話もありました。今回私は、身近なところでのお話しか伺っていませんが、本市全体では、ほかにも独自の取り組みから成功体験をお持ちのコミュニティーが幾つもあると思います。さきに述べたとおり、広い新潟市においては、一律に同じやり方ではうまくいか

ない面もあるかもしれません。しかしながら、コミュニティー同士で10年以上積み重ねてきて熟度を増した体験に耳を傾け、分かち合う中で、同じような地域の問題が重なり、参考となる体験もあるかもしれません。ぜひ、こうした分かち合いを行い、見守り体制の構築、拡大につなげていただきたいと思います。所見を伺います。

次に（２）、防犯カメラの設置について伺います。

小針の事件では、子ども見守り隊の空白地点を突いて犯罪が発生しました。マンパワーだけではカバーし切れない危険箇所を補完するために、防犯カメラの設置が求められています。教育委員会と市では、各小学校区で通学路等の緊急総点検と防犯カメラ設置への補助を行い、小針では補助制度を利用して踏切付近と犯行現場付近に防犯カメラが設置されるようです。児童自身が危険箇所を知ることによって身を守るための地域安全マップづくりも、数年前からコミュニティー協議会と小学校が協力して取り組んできました。地域での聞き取りから、危険箇所も防犯カメラの設置が必要な場所も熟知しているコミュニティー協議会への補助制度の周知は、果たしてどこまで徹底されていたのか疑問が残ります。また、5月31日で補助制度の受け付けは締め切りとなりましたが、コミュニティー協議会の多くが事件から間もない5月中旬に総会を開催しており、新年度予算が承認されたばかりで5月末が補助制度の締め切りでは、検討するにも時間が足りないと思われますし、そもそも、まだ事件の検証から対策についての十分な議論が尽くされたとは言いがたい時期に制度の受け付け終了では早過ぎると思われます。柔軟な対応があっべきだと思います。所見を伺います。

○議長（永井武弘） 篠田市長。

〔篠田 昭市長 登壇〕

◎市長（篠田昭） 荒井宏幸議員の御質問にお答えします。

初めに、見守り体制の構築，拡大についてです。

西区の小学生の痛ましい事件を受け，通学路での見守り強化のために，各小学校区では子ども見守り隊の再募集を行い，昨年度末で2,502人だった子ども見守り隊は，6月12日現在で2,845人と，343人増加しました。しかし，地域によっては，高齢により継続できないとの申し出をいただいている方の増加や，新規参加者の低迷など，将来的な活動の維持が懸念される地域があることも承知しています。今後，より多くの方から御参加いただくために，各地域の子ども見守り隊が継続的な活動につながる成功事例を広く共有することも含め，地域の皆様とともに体制強化に向けた方策について検討していきます。

次に，防犯カメラの設置についてお答えします。

防犯カメラは，犯罪の未然防止に一定の効果があると認識していますが，子供の安心，安全の確保のためには，地域ぐるみで見守り活動を行うことが基本であると考えています。現在，全ての小学校で進めている危険箇所の総点検の結果を踏まえ，地域の皆様や警察と連携しながら，安心，安全に向けた取り組みを強化するとともに，防犯カメラの整備については，見守り活動を補完するものとして引き続き整備を検討していきます。

また，自治会，町内会の防犯カメラ設置費用の一部を補助する市の制度は，当初，5月末を申請の締め切りとしていましたが，今回，あのような事件が

起きましたので、この締め切りは事実上なしということにさせていただき、今後の危険箇所の総点検の結果を踏まえ、今も御相談を受けていますので、さらに多くの自治会などからの追加要望にも対応していきます。

〔荒井宏幸議員 発言の許可を求む〕

○議長（永井武弘） 荒井宏幸議員。

〔荒井宏幸議員 登壇〕

◆荒井宏幸 総じて前向きな御答弁をありがとうございました。また、締め切りもなしとして、引き続き対応していただけるということですので、ぜひとも地域の宝である子供たちを守るための御支援をお願いしたいと思えます。

次に2、新知事による県政との連携について伺います。

このたびの米山前知事の女性問題による辞職に伴う県知事選挙により、花角英世新知事が誕生しました。国土交通省などで36年間働き、新潟県副知事や海上保安庁次長を務めた行政手腕や国とのパイプが評価された形であり、人柄のよさも好評でした。経済復興や交通網の強化、観光振興など、大いに期待が持てるところです。選挙終盤の確認団体の届け出ビラ第2号には、具体的な幾つかの項目が明記されていました。新聞折り込みもされたので、ごらんになった方も多いと思えます。これらはまさに実現に向けての強い気持ちのあらわれであり、本市にとっても豊かに成長していくための課題として、大いに共有できるものであると思われます。今回の新知事による県政との連携についての質問は、その中でも特に私が進めるべきと思う政策について掘り下げたものです。

(1)、拠点化についてですが、ア、新幹線の新潟空港乗り入れについては、昨年、米山前知事は、空港利用客が135万人を超えるまでは議論を行わないという方向性を示されました。知事の決断が左右するこの案件について花角新知事は、選挙戦において県民の所得アップ実現のための施策の一つに挙げています。政府も日本の経済成長には観光立国の推進が不可欠と見て、観光戦略の推進に注力する方針をとってきました。その具体的な目標が、訪日外国人を2020年に4,000万人、2030年には6,000万人に達成させるという数字です。そして、この目標を達成するためには、地方での受け入れ体制の整備が不可欠となっています。首都圏の空港では追いつかない訪日外国人の受け入れを補完する地方空港も必要となります。国の観光戦略を誰よりも熟知している新知事が、空港、駅、港などの点を線で結び、県民の利便性向上と新潟の拠点性向上で「県民くらし満足度ナンバーワンをめざします」と宣言しています。本市の未来を大きく前進させるためにも、この課題には県と連携し、前向きに取り組んでいただきたいと思います。所見を伺います。

また、イとして、LCCによる新規国際路線の開設についてですが、花角知事が副知事時代にLCC、ピーチアビエーションの航空路開設に向けて努力された結果が、現在の定期就航につながったと聞いています。今、日本へは多くの外国人観光客が訪れている中、新潟県内、とりわけ本市に至っては残念ながらおくれをとっていると言わざるを得ない状況です。新潟空港でのLCCによる国際路線の新規開設は、本市のインバウンド、誘客拡大に大きな起爆剤となることは間違いありません。開設に向け、しっかり県と協力して進めていただきたいと思います。決意のほどを伺います。

○議長（永井武弘） 篠田市長。

〔篠田 昭市長 登壇〕

◎市長（篠田昭） 新知事による県政との連携についてお答えします。

初めに、拠点化についてのうち、新幹線の新潟空港乗り入れについてです。

新幹線の新潟空港乗り入れを含む空港アクセスの改善については、これまで長年議論されてきたわけですが、県は昨年12月に策定した新潟空港アクセス改善の基本的考え方に基づき、短期、中期、長期に区分して改善に取り組むこととしてきました。既にLCCの誘致を初め、利用者増を図る空港活性化施策に取り組んでおり、平成29年度末で100万人を達成するなど、その成果があらわれてきました。

そのような中、このたび就任された花角新知事は、選挙マニフェストにおいて、新潟に人を呼び込むことに全力を挙げるとし、新潟県を訪れる訪日外国人の増加により、新潟空港利用者を大幅に増加させ、軌道系アクセス整備の機運を高めていくことを掲げられていました。私も空港の活性化は県、市共通の重要な課題の一つと認識しています。泉田県政のときからですが、本市が県の支援を受けて新潟駅の連続立体交差事業、そして市内のバス交通の改善に取り組み、県は空港アクセスなど、羽越本線高速化も含めて大きな課題に取り組むということで役割分担していたわけです。より高度なアクセス改善は、特に県の主導が必要で重要な共通課題と考えています。

今後も既存のアクセスの改善など、できる施策を積み上げていくことにより、さらなる利用者増を図っていきながら、早期に新幹線乗り入れも含む軌道系アクセスの導入に向けた根本的な議論を始めたいと考えて

います。

次に、ＬＣＣによる新規国際路線の開設についてです。

本市は県と連携し、2020年度までに年間空港利用者数135万人を目標に掲げ、新規路線の誘致などに取り組んでいます。そのような中、本年3月に新規就航した国内ＬＣＣ路線は、空飛ぶ電車を標榜する手軽な料金により新規需要を獲得し、就航後1カ月で利用客が1万人を突破しました。現在も好調を維持し、このまま推移しますと年間10万人を超えるのも十分あり得るという計算になっています。ＬＣＣ就航は、空港の利用活性化に大きく寄与するものと考えています。

新たに就任した花角知事は、大阪航空局長を務められた経歴から航空行政に大変明るく、今回の知事選でのマニフェストにおいて、ＬＣＣの国際線を含む新規路線の誘致を掲げていました。一方で、新潟県は県民のパスポート取得率が低く、新規国際路線の就航に向けては、インバウンドのみならず、アウトバウンドを含め、双方向の需要を喚起する必要があると認識しています。

私も新知事と同じ方向性で路線誘致に取り組みたいと考えており、今後さらに県や関係団体との連携を深め、利用者層に合った効果的な手法により路線利用を促すためのPRを行うなど、戦略的なエアポートセールスを実施し、交流人口の拡大による拠点性の向上に努めていきます。

〔荒井宏幸議員 発言の許可を求む〕

○議長（永井武弘） 荒井宏幸議員。

〔荒井宏幸議員 登壇〕

◆荒井宏幸 1点再質問ですが、昨日も言っていた新潟県・新潟市調整会議について、たしか4月に予定されていたと思いますが、米山知事の騒動によって直前で開催されなかったのが近く開催されるということですが、その際に新幹線の新潟空港乗り入れを含む空港アクセスについても話をされる予定でしょうか。

○議長（永井武弘） 篠田市長。

〔篠田 昭市長 登壇〕

◎市長（篠田昭） 短い時間でしたが、花角新知事と意見交換させていただいたときに、新潟県・新潟市調整会議では、より拠点性の部分を重視していきたいということで双方が一致しています。それを踏まえて事務方がまた積み上げて、それを知事と私がこれでいいのではないか、あるいはもう少しこうやってほしいということで正式に決定していきますが、今はその過程にあるという状況です。7月になるとと思いますが、できるだけ早く日程を決めていただきたいと思っています。

〔荒井宏幸議員 発言の許可を求む〕

○議長（永井武弘） 荒井宏幸議員。

〔荒井宏幸議員 登壇〕

◆荒井宏幸 新潟県・新潟市調整会議の早い実現を期待しています。

それでは、次の質問に移ります。（2）、クルーズ船による誘客拡大について伺います。

本市のクルーズ船の寄港数は、今年度は13回予定されており、平成29

年度、平成 28 年度がともに 7 回であったことから見ると、一気に 2 倍近くまでふえたこととなります。さらに、平成 31 年度も新潟港過去最大のクルーズ船、ダイヤモンド・プリンセスの初寄港も決定しており、新潟県を初めとする関係機関と協力して誘致活動を行ってきたことが実を結んできていると見受けられます。そして、ここに来て観光行政に強い花角知事の実力は、まさに鬼に金棒と言えます。この好機を生かし、さらに港の活性化を進めたいところですが、アとして、クルーズ船の現状と今後の寄港予定についてお聞かせください。

また、イ、クルーズ船の受け入れ態勢についてですが、これから県と連携し、クルーズ船の寄港数がふえていくことが期待されますが、乗船客が本市へ訪れたいという受け入れ態勢も整えていく必要を感じます。本市の魅力をうまく伝えていかないと、せっかく寄港しても、お客様が船内で過ごされたり、本市ではなく近隣市町村へ流れてしまうかもしれません。船内で事前に予約を受け付けるオプションツアーをシーズンごとに何種類か企画しておくなど、ソフト面での対策が求められると思いますが、所見を伺います。

○議長（永井武弘） 笠原国際・広域観光担当部長。

〔笠原秀紀国際・広域観光担当部長 登壇〕

◎国際・広域観光担当部長（笠原秀紀） クルーズ船誘致による誘客拡大についてお答えします。

初めに、現状と今後の寄港予定についてです。

今年度は過去最高となる 13 回のクルーズ船寄港が予定されており、特に西港では 5 回から 11 回にふえています。クルーズ船の誘致については、昨

年度より県と連携しながら、国内の船社に加え、寄港決定権を持つ欧米クルーズ船社の本社などにもセールスを広げ、2019年度以降の寄港に成果がはじまっています。先ほどダイヤモンド・プリンセスの就航のお話もありましたが、2019年4月末には東港に、ダイヤモンド・プリンセスをさらに上回り過去最大となる16万8,000トン、乗客定員約4,000名の大型船、クァンタム・オブ・ザ・シーズの寄港も決定しているほか、10月には西港に富裕層向けのクルーズ船の初寄港が決定しています。

次に、受け入れ態勢についてです。

寄港時の乗客の満足度が、クルーズ船社による次年度以降の寄港地選定に影響するため、セールスとともに受け入れ態勢を充実させ、乗客の皆様が新潟に寄港してよかったと満足していただくことが重要と考えています。そのため、岸壁では、乗客がストレスなく乗下船を行えるスムーズな動線確保、温かな歓迎を感じられる芸能披露などの歓送迎対応を行っており、さらには乗客に市内を周遊して楽しんでいただく仕組みづくりを行っています。

西港には海外の富裕層向けクルーズ船が寄港しており、岸壁と市内を結ぶシャトルバスを運行し、市内での飲食、買い物を楽しんでいただいています。また、西港が発着港となる行程のクルーズでは、乗船前や下船後に市内宿泊をされている方もいることから、現在、寄港地ツアーを企画する旅行会社に芸妓、料亭など、新潟の文化を感じることができる宿泊込みのツアープランを提案し、宿泊客増加に向けた取り組みも進めています。

東港では、数千人規模の大型クルーズ船が寄港し、西港同様に市内にシャトルバスを運行し、商店街と連携して町なかに設置する観光案内ブースで観

光、食事などのスポットを紹介しています。このほか、クルーズ船社や旅行会社に温泉や果物狩りなどをめぐる寄港地ツアープランを提案し、本市の魅力を楽しんでもらえるような取り組みを行っています。

さらに、海外クルーズ船の着岸時には、専門学校、大学と連携し、岸壁や町なかでの外国語対応の充実を図るなど、乗客の満足度向上に努めています。今後も受け入れ態勢の充実に積極的に取り組むとともに、新知事の掲げる海外クルーズ船社へのセールス活動について、県との連携強化を進めることで、クルーズ船による誘客拡大を図ります。

〔荒井宏幸議員 発言の許可を求む〕

○議長（永井武弘） 荒井宏幸議員。

〔荒井宏幸議員 登壇〕

◆荒井宏幸 16万8,000トンのクァンタム・オブ・ザ・シーズ、非常に楽しみです。

1点再質問ですが、クルーズ船が寄港した際に、本市からお客様が乗り込むケースが極めて少ないと感じています。船社にしてみれば、観光地として魅力のある場所であることに加えて、集客の面でも機会が広がるとなれば、本市が寄港地に選ばれる可能性も高まるのではないのでしょうか。特に、新潟空港や新潟駅、高速道路からもアクセスのよい場所に西港、東港とも位置しており、乗船しやすいと思われれます。この点について注力していくというのはいかがでしょうか。

○議長（永井武弘） 笠原国際・広域観光担当部長。

〔笠原秀紀国際・広域観光担当部長 登壇〕

◎国際・広域観光担当部長（笠原秀紀） 再質問にお答えします。

今年度、新潟西港に寄港する飛鳥Ⅱ，にっぽん丸，そして海外クルーズ船社が運行するカレドニアン・スカイの3隻において，新潟が出発地もしくは終着地となるクルーズも実施されており，特に海外クルーズ船社からは，新潟港から新潟駅，新潟空港までのアクセスのよさを評価されています。今後は利便性に加え，ナイトタイムエコノミーの充実を図り，乗下船前後に本市での宿泊を伴うプランを提案し，新潟駅や新潟空港を利用した新潟港発着のクルーズ船についても，誘致に積極的に取り組んでいきます。

〔荒井宏幸議員 発言の許可を求む〕

○議長（永井武弘） 荒井宏幸議員。

〔荒井宏幸議員 登壇〕

◆荒井宏幸 きょうは，日ごろワールドワイドな活動で活躍されています笠原部長に特別においでいただいて答弁していただき，ありがとうございます。ぜひ今後も交流人口の拡大に向けて御尽力をお願い申し上げ，次の質問へと移らせていただきます。

次の質問は佐渡の質問です。午前中，伊藤健太郎議員が佐渡市との観光連携について質問された際に，世界遺産登録へ向けて今まで以上に強い思いが随所に語られていましたが，改めて強い決意を伺いたく，質問させていただきます。

(3) , 佐渡金銀山世界遺産登録についてです。

花角県知事は佐渡で生まれ、幼少期を過ごされたことから、佐渡金銀山の世界遺産登録に向けての期待はいやが上にも高まります。佐渡金銀山は、江戸時代から約400年の間に金78トン、銀2,330トンを産出し、日本最大の金銀山として国内外の経済に大きな影響を与え、長期間にわたり国の財政を支えてきました。各時代の鉱山遺跡、町並みがよく残されている世界で唯一の鉱山です。金の生産工程を描いた絵巻物が100点以上残る鉱山は、世界的に見てもほかに例がありません。歴史的にも文化的にも高い価値を持つ佐渡金銀山の世界遺産登録の国内推薦を、ことしこそかち取りたいところです。

昨年、観光交流促進調査特別委員会の視察で長崎市へ行き、世界遺産登録について調査してきました。「長崎から2つの世界遺産を」というスローガンのもと、世界遺産推進プロジェクトが進められていました。既に世界遺産として登録されている「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」と、ことしの世界遺産登録を目指している「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」の2つです。「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」の現地視察として、長崎市端島、通称軍艦島へも上陸しました。軍艦島行きの船は、修学旅行の中学生や外国人観光客でほぼ満席であり、これも世界遺産効果と見受けられます。日本の近代化を根底から支えた美しい廃墟は感慨深いものがありました。島を離れていく船の中でのアナウンスが「次回訪れたときは、恐らく同じ形ではなくなっているでしょう」と伝えていました。このようなはかなさ、寂しさが人の心を引き寄せているのかもしれない。佐渡にも、金銀山とともに歴史に残る北沢浮遊選鉱場とい

う美しい廃墟があります。廃墟マニアにとっては欠かせない場所と伺っています。私は真っ先にこの場所が目につかびました。歴史的背景とともに、物語が必要であると強く感じています。長崎市端島炭坑を含む「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」は、8県11市に存在する23資産によって、その歴史的価値を証言しています。ことし世界遺産登録を目指す「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」は、2県6市2町に存在する12資産が、その類いまれな史実を物語っています。

広域的な連携や協力が歴史的価値の厚みを増し、世界遺産登録への大きな前進となると思い、本市も金を中心とする佐渡鉱山の遺産群の流通に携わる遺産はないものかと私は着目したのですが、残念ながらそれは淡い期待に終わりました。しかしながら、現在、佐渡へは本市から渡ることがメインルートとなっており、佐渡金銀山の世界遺産登録が実現し、多くの観光客が訪れることになれば、本市にも観光客が立ち寄ります。佐渡市とは既に観光における連携協定を結んでいます。県も含め、さらに協力体制を強める時期と思われれます。決意のほどを伺います。

○議長（永井武弘） 篠田市長。

〔篠田 昭市長 登壇〕

◎市長（篠田昭） 佐渡金銀山世界遺産登録についてお答えします。

佐渡金銀山の世界遺産登録に向けては、本市においても講演会を県や佐渡市と共同開催し、市民の機運醸成を図ったほか、世界遺産登録推進県民会議や保存・活用行動計画推進会議に参画するなど、積極的に活動を行ってきました。この夏には、国の文化審議会世界文化遺産部会において世界遺産推薦

候補の選定が予定されていますが、佐渡金銀山が世界遺産登録となれば、国内はもちろん、世界から注目を集めることとなり、本市の交流人口拡大にも大きく寄与するものと考えています。

佐渡出身の花角知事からは、さまざまな場面で世界遺産登録を念頭に熱意ある発言があり、就任後早々に林文部科学相に対し協力要請を行うなど、積極的に活動しています。私も知事選の翌々日、12日に自由民主党の二階幹事長とお会いし、今の佐渡の状況を説明し、意見交換を行わせていただきました。

世界遺産登録に向けては、佐渡への玄関口である本市における機運醸成も欠かせないことから、これまでにないレベルの連携を佐渡市などで行い、さらに一丸となって推薦を目指していきたいと考えています。

〔荒井宏幸議員 発言の許可を求む〕

○議長（永井武弘） 荒井宏幸議員。

〔荒井宏幸議員 登壇〕

◆荒井宏幸 今ほど市長がおっしゃられましたように、ぜひとも玄関口である本市も、機運醸成に向けてさらに最大限の努力をお願いしたいと思うところ です。

それでは、最後の質問となります。3、東区木戸地域の交通対策についてです。

木戸地域は東区のほぼ中央部に位置しており、多くの住宅が建ち並んでいます。その中にある、かつての県立新潟東工業高校の跡地の一部は現在、新潟地域振興局竹尾庁舎となっています。そして、この新潟地域振興局の移転

後に、この地域では交通量が増してきています。新潟地域振興局の前を通る市道山木戸逢谷内線は一方通行であるため、反対方面から来る車は住宅街の幅員の狭い道路を回って新潟地域振興局に入ってきます。一方通行でそのまま来た車も、帰りは逆に住宅街を回っていくこととなります。また、渋滞を避けた乗用車が抜け道として周辺的生活道路に流れ込んでいるという実情もあります。このように朝と夕方の通勤・通学時間帯を中心とした交通集中により、安全で円滑な交通機能が十分に確保されておらず、こうした交通対策の検討が地域にとって喫緊の課題となっています。今後、県立特別支援学校の開校や栗ノ木バイパス高架化の完成による交通の流れの変化で、何も手を打たなければ、さらにこの地域の交通量が増加することが予想されます。これにより、地域の高齢者や児童が交通事故に遭う危険が増していくことも懸念されます。

これらの問題を解決するための方策については、今後ますます議論を重ねる必要がありますが、一つの案として、新潟地域振興局前の山木戸逢谷内線の拡幅及び一方通行解除が有効ではないかという声も多く上がっています。道路拡幅には、必要な用地の買収など、時間を要する場合があります。暫定的に歩道の調整などにより、車道を広くとる可能性も考えられます。現在の歩道は、車道から一段高くなっている、よくあるマウンドアップ式と呼ばれるもので、高さは10センチから高くても15センチ程度です。所によっては、かなり傷みも見受けられます。これを、高さが20センチある歩車道境界ブロックを設置するフラット式かセミフラット式に整備することにより、歩行者は車から守られることになると思います。地元の住民も企業も望んでいる

のは、安全と活性化です。外的要因により人の流れ、車の流れが変化する中、何も対策を講じなければ、住みにくい町としてやがて地域から人が去っていき、子や孫の時代には、住みなれた町の姿はもう見られないといったことにもなりかねません。そうなる前に、今こそ地域と行政が手を携えて交通整理をしていくことが必要と思います。幸い、地元自治会や本市関係部署、沿線関係機関から成る交通対策検討会も立ち上がり、貴重な情報提供と熱心な意見交換が行われています。ぜひ地域にとって最良な方向へ前進するよう、引き続き力を注いでいただきたいと思います。

これらの問題解決に向け、地域の交通対策についてどのように考えているかお聞かせください。

○議長（永井武弘） 堀内東区長。

〔堀内貞子東区長 登壇〕

◎東区長（堀内貞子） 東区木戸地域の交通対策についてお答えします。

旧新潟東工業高校跡地に移転した新潟地域振興局周辺には、木戸と竹尾の2つの小学校があり、また3年後には新潟地域振興局に隣接し、県立特別支援学校も開校予定であることから、周辺道路も含む地域全体の交通安全対策が必要であると認識しています。

そのため、これまで市道山木戸逢谷内線の一方通行解除に向けた道路拡幅などについて、地元自治会や警察、バス事業者と調整を行ってきましたが、今後も、新たに設置した木戸地域交通対策検討会や地元との勉強会を継続し、意見調整、合意形成を図っていきます。

これらと並行し、周辺道路における安全対策として、時間帯進入規制やス

クールゾーンの指定，走行速度の抑制対策などを地域の皆様と一緒に検討し，警察と協議をしていきたいと考えています。

〔荒井宏幸議員 発言の許可を求む〕

○議長（永井武弘） 荒井宏幸議員。

〔荒井宏幸議員 登壇〕

◆荒井宏幸 区長，前向きな答弁ありがとうございました。まずはやはり安全確保，そしてその上で地域の方たちが過ごしやすい環境ができるように，スピード感を持って取り組んでいただきたいと思います。できれば区長の在任中に実現するようにお力添えをいただければと思っています。

以上で終了します。（拍手）